



プライドマッチ報告書

プライドハウス東京
アスリート発信チーム

TOPIC

1. 研修会の開催
2. プライドマッチへ向けた事前準備
3. プライドマッチ当日の様子
4. 関係者コメント

1. 研修会の開催

「性の多様性（SOGIE*）」についての研修会

4月17日（土）大和シルフィードの選手、指導者、スタッフの皆さまへ「性の多様性（SOGIE*）」をテーマにした研修会を実施いたしました。

性に関する自分らしさは多様であること、そしてスポーツチームの中でみられる多様な性のあり方を「無きもの」や「無視」するのではなく、当たり前のこととして認め、**プロアクティブに誰もが自分らしくいられる「チーム文化」**を作ることの重要性やその方法をお伝えしました。

*SOGIE (Sexual Orientation, Gender Identity and Expression : 性的指向と性自認と性表現)



（参加をした選手・スタッフ・クラブ関係者の皆様）



（当日の研修会の様子）

選手が自ら考え、アクションへ

研修会后、5月2日のプライドマッチに向けてどのようなアクションを行うか、選手が主体的に考え、話し合いを行っていただきました。

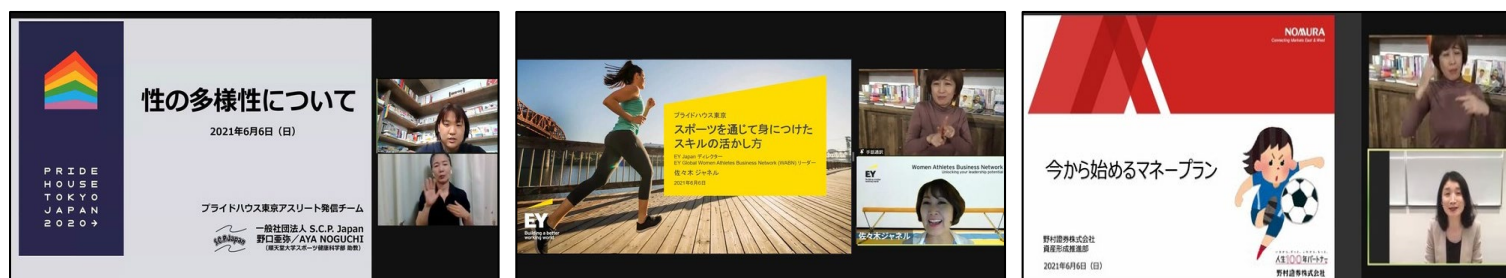
1. 研修会の開催

「性の多様性（SOGIE*）」についての研修会

プライドハウス東京の企業パートナーのEY Japan、野村ホールディングス株式会社の協力のもと、「性の多様性」に関するオンライン研修会を開催致しました。

さらに、アスリート発信チームの取り組みにご協力いただいているEY Japanより「女性アスリートのためのキャリア形成」について、野村ホールディングス株式会社より「マネープランニング」に関する内容も盛り込み、女性アスリートが将来に気兼ねなくスポーツに打ち込めるためのライフプラン形成に役立つ情報も発信しました。プライドマッチを開催するチームスタッフ・選手の研修の機会とも位置付け、スポーツ関係者など総勢103名に参加いただきました。

*SOGIE (Sexual Orientation, Gender Identity and Expression : 性的指向と性自認と性表現)



(当日の研修会の様子)

選手が自ら考え、アクションへ

研修会后、プライドマッチに向けてどのようなアクションを行うか、選手やスタッフが話し合いを行っていただきました。

2. プライドマッチへ向けた事前準備

各クラブとの事前の準備・確認事項

- ▼試合会場の装飾方法
- ▼映像の配信について
- ▼プライドハウス東京の物販ブースの設置有無
- ▼ご来場者への配布物の検討
- ▼プレイベントの開催の有無
- ▼レインボーシューレースの使用

プライドハウス東京のリソースをご希望に応じてご使用いただけるようにし、クラブごとにどのようにプライドマッチを開催するかご検討いただきました。

プライドハウス東京のリソース

- LGBTQとスポーツに関する冊子
- アスリートからのメッセージ動画
- LGBTQとスポーツに関するパネルの貸し出し
- LGBTQに関する活動への寄付となるプライドハウス東京の物販販売
- レインボーシューレースの提供
- プライドハウス東京のロゴが入った装飾品の貸し出し
- レインボーのぼり（プライドハウス東京保有）
- プライドハウス東京メンバーによる試合前またはハーフタイムのプレトーク

など、クラブ側のご希望に応じてご提供ができる準備を整えております。



3. プライドマッチ当日の様子

試合会場の装飾：ノジマステラ神奈川相模原

- 実施日：2021年4月29日（木・祝）
- 試合：2021WEリーグプレシーズンマッチ
（VS.三菱重工浦和レッズレディース）
- 会場：相模原ギオンスタジアム



プライドハウス東京提供

- ▼コンコース内にブースを設置
 - ・プライドハウス東京のフラッグ
 - ・パネル4種
- ▼大型ビジョンでの映像配信
- ▼冊子の配布



クラブ独自の取り組み

- ▼レインボーフラッグの掲揚
（クラブ保有のものを使用）
- ▼レインボーのぼりの設置
（クラブ保有のものを使用）
- ▼プライドマッチガチャの設置
（クラブで準備）



3. プライドマッチ当日の様子

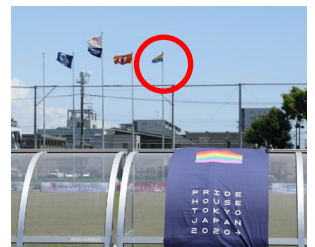
試合会場の装飾：大和シルフィード

- 実施日：2021年5月2日（日）
- 試合：2021年プレナスなでしこリーグ1部第6節
（VS. コノミヤ・スペランツァ大阪高槻）
- 会場：大和なでしこスタジアム



プライドハウス東京提供

- ▼コンコース内にブースを設置
 - ・プライドハウス東京のフラッグ
 - ・パネル4種



- ▼チームベンチにプライドハウス東京横断幕の設置
- ▼レインボーフラッグの掲揚
- ▼冊子の配布



選手主体の取り組み

- ▼レインボーシューレースを選手・スタッフが着用

1週間前に選手へお渡し、練習から新しいシューレースを着用することで、選手が慣れた状態で試合へ臨むことができるようにしました。

- ▼レインボーフラッグを持って入場

レインボーフラッグを持っての入場とレインボーシューレースの着用は、研修会後選手・スタッフで話し合いが行われ、選手が主体的に決定をして取り組んだアクションです。



3. プライドマッチ当日の様子

試合会場の装飾：ちふれASエルフェン埼玉

- 実施日：2021年6月19日（土）
- 試合：2021WEリーグプレシーズンマッチ
（VS AC長野パルセイロ・レディース）
- 会場：熊谷スポーツ文化公園陸上競技場



プライドハウス東京提供

▼コンコース内にブースを設置

- ・物販ブース
- ・プライドハウス東京ののぼり
- ・絵本コーナー

▼大型ビジョンでの動画配信

▼冊子の配布



クラブ独自の取り組み

▼プライドハウスフラッグ、レインボーフラッグ使用（入場時）

▼レインボーシューレース を選手・スタッフが着用



3. プライドマッチ当日の様子

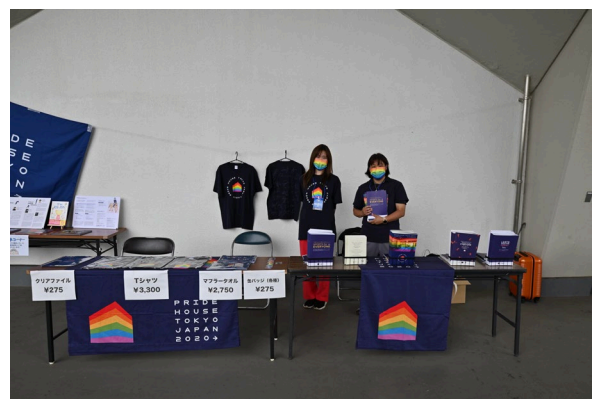
試合会場の装飾：スフィーダ世田谷FC

- 実施日：2021年6月19日（土）
- 試合：2021年プレナスなでしこリーグ1部第12節
（VS セレッソ大阪堺レディース）
- 会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場



プライドハウス東京提供

- ▼コンコース内にブースを設置
 - ・物販ブース
 - ・プライドハウス東京のフラッグ
 - ・絵本コーナーの設置
- ▼レインボーフラッグの掲揚
- ▼冊子の配布



選手主体の取り組み

- ▼レインボーシュールースを選手・スタッフが着用
- ▼キックオフ前に選手3名によるトークイベントの実施
- ▼会場内にレインボーのぼりの設置



3. プライドマッチ当日の様子

試合会場の装飾：ヴィアマテラス宮崎

- 実施日：2021年6月27日（日）
- 試合：2021九州女子サッカーリーグ2部 第4節
（vs 福岡大学VANCE）
- 会場：富田浜公園（宮崎県）



プライドハウス東京提供

▼ご来場者にLGBTQとスポーツに関する冊子の配布



©ヴィアマテラス宮崎

▼プライドマッチ開催にあたり、選手・スタッフへ研修会の開催



選手主体の取り組み

▼ご来場者の方へカラフルなマッチデーの配布



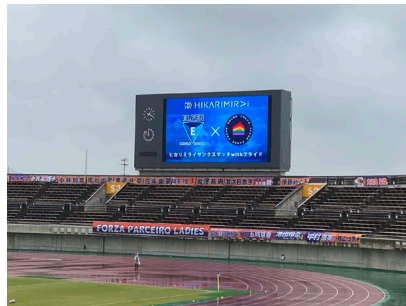
©ヴィアマテラス宮崎

▼7色の野菜の販売



3. プライドマッチ当日の様子

映像の配信



ノジマステラ神奈川相模原、ちふれASエルフェン埼玉のプライドマッチでは会場内の大型ビジョンを使用し、プライドハウス東京の公式映像をハーフタイムに配信しました。大和シルフィードのプライドマッチでは会場内に大型ビジョンがなかったため、ブース横にモニターを設置し、映像を配信いたしました。

物販ブースの設置

大和シルフィード、ちふれASエルフェン埼玉・スフィーダ世田谷FCの会場ではクラブの物販ブース横に、プライドハウス東京の物販ブースを設置しました。売上のうち経費を除いた全額がLGBTQに関する活動へ寄付されました。

プライドハウス東京のTシャツに選手のサインを事前を書いていただき、限定販売を行うなど、クラブとの連携を図ることができました。



3. プライドマッチ当日の様子

ご来場者への配布物

▼5種の冊子の配布：

- ・プライドハウス東京レガシーガイドブック
- ・SPORTS for EVERYONE 2種
- ・LGBTQ YOUTH TODAY
- ・体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン



▼プライドマッチ限定グッズの販売

ノジマステラ神奈川相模原、スフィーダ世田谷FCでは、プライドマッチ限定販売のグッズを作成しました。

ヴィアマテラス宮崎では、7色のお野菜・お米の販売を行いました。



▼ステッカーの配布：

ノジマステラ神奈川相模原戦ではレインボーのグッズを身に付けている方先着100名様にクラブがオリジナルで制作をしたステッカーがプレゼントされました。



プレイベントの開催

大和シルフィードの会場では試合開始前にピッチ前にて、プライドハウス東京の松中権・野口亜弥によるトークショーを開催いたしました。

スフィーダ世田谷FCの会場では試合開始前にピッチ前にて、所属選手によるトークショーを開催いたしました。



4. 関係者コメント

ノジマステラ神奈川相模原

広報/リーグ理念推進担当 小室 瑞紀 様

プライドウィーク期間である4月29日（木・祝）、2021WEリーグプレシーズンマッチにて、プライドマッチを開催致しました。開催にあたり、相模原市人権・男女共同参画課、プライドハウス東京、WEリーグにもお力添えを頂き、当日を迎えました。今回企画から実施までをしていく中で、ご来場されたお客様へのアプローチや、SNS等の発信を受ける方々へのアプローチを考えていましたが、何よりも私自身の考えるきっかけとなり、クラブ内でも考えるきっかけが生まれたのではないかと考えています。そして、SNSを通じて海外の方からも反応を頂くなど、想像を超える反響も感じました。今後はより一層クラブ内での正しい理解を深めていき、WEリーグの理念である「一人ひとりが輝く社会を実現」に向けて、プライドマッチをはじめとする活動を継続的に取り組んでいきたいと思っています。

大和シルフィード株式会社

代表取締役社長 大多和 亮介 様

今回、クラブとしてプライドマッチを開催しようということで取り組み内容の検討がスタートしたのですが、野口さんに実施頂いた事前の講習がきっかけとなって、選手全員で意見を出し合い、シューレースや選手入場時のレインボーフラッグをやるということになりました。そうした議論がクラブ内で生まれたこと自体が成果であり、良かったと思います。これをきっかけに、考え続けていくこと、アクションを続けていくことが大事ですし、LGBTQの当事者の方にとって、大和シルフィードのスタジアムは居心地が良い、女子サッカーのコミュニティは自分らしくいられる場所、と少しでも思ってもらえるようにしていきたいです。ただ、当然良いことばかりではなく、実は嫌な思いをしていた人がいたかもしれないし、不安なままアクションに参加した選手もいたかもしれない。今回のプライドマッチ開催を起点として、これからもクラブ全体で学び、想像力を働かせながら、いずれは『アライ・クラブ』と呼んでいただけるようになりたいという思いを改めて強くした次第です。

4. 関係者コメント

ちふれASエルフェン埼玉 運営責任者 竹内 佐智佳 様

プライド月間に開催される「6月19日（土）」の2021WEリーグプレシーズンマッチは、SDGs推進に取り組む株式会社光未来様と共に「ヒカリミライサンクスマッチ withプライド」としてプライドマッチを開催致しました。

当日は、大型ビジョンによる「プライド」という言葉をテーマに、多様な性の在り方、自分らしさにおいて、社会の中の差別や不平等と戦ってきたLGBTQ+の当事者の方々の認知や周知、「誰もが自分らしくいられるスポーツ環境作り推進」の意を込め、プライドハウス東京と株式会社光未来とちふれASエルフェン埼玉の3者の旗を掲げて選手入場の実施を行いました。

クラブとしても、プライドハウス東京さんと活動を共にすることで色々な学びもありました。来場されたお客様にも「プライド」という言葉を通し、当たり前前の事が当たり前前に過ごせず苦しんでいる当事者の方々の気持ちを発信できたのではないかと思います。

また、WEリーグの岡島チェアも当日来場し、プライドマッチを見学され、今後の活動にも大きな期待を抱かれておりました。我々にとっても使命感を新たに感じると共に、この活動が特別な活動にならなくなる世の中になることを願い、選手達への自発的なアプローチを大事に、ちふれASエルフェン埼玉としても継続してこの活動に取り組んでいきたいと思っております。

スフィード世田谷FC 選手 下山田 志帆 様

プライドマッチをクラブとして開催できたことを大変嬉しく思っています。

私自身、LGBTQ当事者のアスリートの1人ですが、プライドマッチを通して、クラブがアライであると表明してくれることの心強さを強く感じました。

また、今回、キャプテンの野村やチームメイトの榎本と一緒にスピーチをする機会もいただきました。どんな形であれ、選手からメッセージを届けることはポジティブなパワーになるのではと思います。

今後、スフィード世田谷FCが、選手・スタッフ・アカデミー・スポンサーの皆様・ファンの皆様にとって心から居心地の良い居場所していくためにも、プライドマッチを当日で終わらせることなく、クラブのスタンスとして残し続けられれば嬉しいです。

4. 関係者コメント

ヴィアマテラス宮崎
代表 秋本 範子 様

この度のプライドマッチを開催するにあたり、地方の小さなクラブに何ができるのかと考えました。今実施すべきか、伝えたいことは何か、私たちが良いのか……。しかし、地方にもセクシャルマイノリティや生きづらさで悩んでいる人がいるだろう、もしかしたら身近な存在にもいるかもしれないと考える中で、少しでも「安心」を感じてくれる人がいればと、今実施する意味があるのだと思いました。所属する選手もちろん、関わるスタッフ、地域の方々、ホームタウンである新富町から、更にサッカーを通してクラブ認知が高まれば高まるほど、その意味は大きなものとなっていくと感じており、LGBTQのみならず、自らマイノリティだと感じている方々や悩みを抱えた方々が「自分らしく生きる」事に対しクラブがエールをおくれる存在であるよう、これからも継続した活動の推進をしていきたいと考えております。